

新潟市暮らしの点検・評価アドバイザー会議におけるご意見への対応等

事業名：6次産業化サポート事業

No.	ご意見	対応等
1	<p>農家レストランができていますが、地元の豊富な食材、伝統ある郷土食、健康志向を踏まえた健康食など、いろいろなことにつながる、人が訪れる、そういう農家レストランであってほしい。また、これからの開設にあたってはそのような取組みが進むよう行政から指導をして欲しい。</p> <p>他都市の例だが、農家のお母さんたちが、生産した野菜を、グループごとに順番で、バイキング形式で多くの種類の野菜が提供されて、毎日繁盛している。</p>	<p>特区の規制緩和により、農家レストランを市街化調整区域の農地で立地できるようになりました。地産地消を推進し、農家がレストランを整備する要件で、国の補助金も活用しています。その要件を満たしていないようであれば、補助事業の観点から指導が必要になります。</p>
2	<p>ラベンダーはハーブの中で一番有名であり、また薬用植物の中で一番有名な植物であり、そこからエッセンシャルオイルを作って、健康や美容に大変役立つことのできる、付加価値の高い製品である。</p> <p>耕作放棄地にラベンダーを植えておくと、それほど手をかけなくても育つので、江南区で植えてみたが、この取組みは広がる可能性があるので、取り組んでいただきたい。</p>	<p>当センターでは（公財）東京生薬協会と連携協定を締結し、たばこ廃作の跡地利用などの目的で、栽培指導いただきながら、薬用植物の産地化に向けた取組みを進めています。薬用植物は市場がなく、販売先があって初めて作付けできるという状況なので、ラベンダーもただ栽培するだけでなく、まず販売先を見つけるという流れが必要と考えます。</p>
3	<p>6次産業化は食べるだけでなく、美容や福祉も視野に入れて取り組んでいただきたい。</p>	<p>機能性成分の高い大麦の活用について進めています。農研機構北陸研究拠点で育種した「ゆきみ六条」や「北陸もち58号」という大麦はベータグルカンの含有率が高く、一般的にコレステロールや血糖値上昇の抑制作用があると言われ、健康食品として大麦の需要が高まっています。これを活用して障がい者施設と連携しながら商品開発も併せて進めています。</p>

4	<p>消費者は安全に対する情報に関心が高いので、6次化においては安全の表記も考えていただきたい。</p>	<p>食品表示法でアレルギー表示や栄養表示などの表記について定められており、市では、食品表示や食品衛生に関する講習会開催等を通じて周知に努めています。</p>
5	<p>農業全体で考えると、収益を上げていくというところも大事なところだが、全体を活性化させるためには若年層の従事者をいかに取り込んでいくかが重要である。</p>	<p>農業者の高齢化が進み、市内の柿の圃場では収穫期の重労働が負担となり、放棄地が広がっています。当センターでは、柿の果実以外の部位の有効活用ということで、柿葉のポリフェノールに着目し、これまで廃棄されていた剪定枝の若葉活用した柿葉の機能性について試験を行い、高付加価値化を目指しています。付加価値の高い商品開発を進めていくことで農家収入が増えれば、また若い方も参加してくるのではないかと思います。</p>
6	<p>農業、農地の問題は深刻な状況ではあるが、一般の農家の方は農業研究所に対して少し距離を置いて見ている。また、農業研究所の設備、機材、器具について、研究陣の体質、体制についても、物足りないと評価をしている。体制の強化を図っていただきたい。</p>	<p>当センターでは新潟薬科大学、新潟大学等と連携し、試験課題について対応しています。また、食の新潟国際賞財団の研究者ネットワークを重要視しながら対応していきたいと思っています。</p>
7	<p>直売所の淘汰が進んでおり、年間売上3,000万程の直売所が次々と閉鎖に追い込まれている。運営上のノウハウが少ない方もいるので、6次産業化の中で経営指導に取り組むべきである。</p> <p>6次産業化については、新潟は県外と大きなギャップがある。例えば群馬県では、6次産業化に加えて観光、健康まで含め、いわゆる12次産業までを巨大な体制でやっている。一農家の資本レベルではなく、ファンドや国の資金を大量に使っている。そのようなスケールの大きさを求めるのか、それとも個人経営で、個人とのせめぎ合いや法人とのせめぎ合いをしながら、新潟における個人農家の安定と育成に力を注ぐのか、当面は後者ターゲットを絞るべきでは</p>	<p>個々の農業者を個別に支援することも必要ですが、全体的な農家収益につながる6次産業化の取組み、例えば農産物の1.5次加工を共同で実施する取組みなどの支援も、行政としての支援のあり方の一つと考えています。</p>

	ないか。	
8	<p>南区は芍薬は昔から新潟市では圧倒的な生産地で、花の材料として根を分けて種苗会社に販売したり、ひげ根っこは漢方薬として製薬会社に売るとなど、ダブルで所得を上げていた。一時、全部中国産に芍薬は押されたが、もう一度、芍薬を今の朝鮮人参、その他と一緒に生産の流れに乗せていければ、非常に取り組みしやすいし、そういうものがまだまだたくさんあるのではないか。</p>	<p>(公財) 東京生薬協会と連携協定を締結し、生薬原料となる薬用植物の国内産地化に向けて試験栽培を行っています。シャクヤクの試験栽培も行っており、今後産地化を図るには有望な品目と考えています。</p>
9	<p>洋梨ルレクチェは、自力で、全国でトップのところまで成長した加工農家が南区にはあるし、桃は長野の業者が2級品を集積に来て、それを福島の搾汁業者に渡して、東京の販売会社が販売している。今果汁では、日本で4つぐらいしか搾るところがなく、新潟市はあくまでも材料提供にしか今はなっていない。もう少し現状の農家の動きの中で調査をし、例えば搾汁分野など新たな分野に進出していくべきではないか。</p>	<p>6次産業化を進めるうえで課題となっている点については、改めて整理する必要があります。農業者や食品業者を通じて課題の吸い上げを検討していきます。</p>
10	<p>個人農家が多いのに、農家収入を増やすための支援が、1件当たりの金額がそんなに低いと、本人の持ち出しのほうはるかに多くなる。6次産業をやって、農家の収入が増えるものという考え方の中には、もっと法人化を進めていく教育、地域のコミュニティとの関係をしっかり捉えて、その中でどう助成していくかということを考えないと助成にならないのではないか。また、投資効果は確認しなければならない。</p>	<p>I P C財団と連携し、製品開発という部分でパッケージからブランディングまである程度考えて、売れる状況をつくるという支援をしています。投資効果は、補助事業実施後の状況を確認しています。</p>